

日本企業の株式・負債選択と最適資本構成

広島大学 式見 雅代

本稿では、企業の資金調達、返済局面における財務意思決定が、最適資本構成への調整を考慮したものとなっているかどうかを、1970年代以降の上場企業のデータを用いて検証した。分析から、負債 vs. 株式の選択において、負債比率が最適値よりも過小の企業は、株式よりも負債による資金調達を選択していることが発見され、エージェンシーコストの要因を考慮しても、分析期間をバブル期前後で分割しても結果は変わらなかった。さらに、負債比率が最適値よりも過大である場合、自社株買戻しよりも負債の返済を選択していることがわかった。これらの結果は、企業の負債政策が最適資本構成への調整を念頭に行われていることを示唆する。